

## 解釈的現象学的分析からみた中規模病院に就業する キャリア中期にある看護師のストーリーとしてのキ ャリア

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-06-15 キーワード: 作成者: 大井, 千鶴 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/838">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/838</a>

# 博士學位論文

内容の要旨及び論文審査結果の要旨

第 44 号

2018年3月

武蔵野大学大学院

## は し が き

本号は、学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条による公表を目的として、2018年3月16日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を収録したものである。

※要旨番号について、通し番号の整理により以下の通り変更（2022年8月8日）。

- ・変更前：第5号
- ・変更後：第44号

## 目 次

氏 名	学位記番号	学位の種類	論 文 題 目	(頁)
大井 千鶴	博士甲第44号	博士（看護学）	解釈的現象学的分析からみた中規模病院に就業するキャリア中期にある看護師のストーリーとしてのキャリア	… 1

氏名	大井千鶴
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	甲第44号
学位授与の日付	2018年3月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	解釈的現象学的分析からみた中規模病院に就業するキャリア中期にある看護師のストーリーとしてのキャリア
論文審査委員	主査 武蔵野大学 教授
	荻野雅
	副査 首都大学東京 教授
	西村ユミ
	副査 武蔵野大学 教授
	香春知永

## 論文内容の要旨

本研究の目的は、わが国において最も多くの看護師が就業する場である地域の中規模病院に勤務し、就業を継続するキャリア中期にある看護師に共通するストーリーとしてのキャリアを解釈的現象学的分析により明らかにし、キャリア中期にある看護師のキャリアとは何かを理解することである。

研究デザインは、現象学、解釈学、個性記述学の観点から成り立つ Smith の解釈的現象学的分析を方法論とする質的記述的研究とした。研究参加者の条件は、200床以上の総合病院で就業を継続し、12年から19年の臨床経験を持ち、認定看護師、専門看護師等の資格を持たず役職にも就いていない看護師8名であった。参加者には、協力の得られた病院の看護管理者を通して協力依頼し、承諾を得た。調査は武蔵野大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て開始し、調査期間は2015年7月から2017年1月であった。予備調査として1名の参加者に半構成的面接を2回実施し、インタビューガイドの修正は不要だが、2回目の面接の際、相違のない解釈であることを共有するために、第4段階の分析結果を参

加者に紙面で渡す必要性を確認した。本調査の第1段階は参加者1名のデータ収集と分析を徹底して行い、その後、第2段階で参加者5名の調査を進めた。第3段階では地域の異なる2名の参加者の調査をした。全ての参加者に対して、1回目の面接の約1ヶ月から2ヶ月後、2回目の面接を行い、面接内容の解釈を紙面上で確認すると共に追加のデータを収集した。分析方法は解釈的現象学的分析を適用し、研究会等の第三者によるメンバーチェックの機会を設け信憑性を確保した。

結果として、参加者の勤務地は6名が都市部、2名が遠隔地、性別は女性7名、男性1名であった。全員が2回の面接によって語り尽くした状況となり、1回あたりの面接平均時間は103分、1回あたりのトランスクリプトの平均文字数は17,662文字であった。第1段階から第6段階の分析を通して、キャリア中期の看護師に共通するキャリアを表す6つのMasterテーマと13のSuper-ordinateテーマが浮上した。Masterテーマは【1. 看護専門職者となった自分の患者に対する責務に気づく】【2. 職業としての自分なりの価値を感じられるからこそ看護師を続ける】【3. 自分なりの看護実践がつくりあげられていく】【4. 自分の経験から看護師として実践していく場を自分に問われてくる】【5. 試行錯誤しながら遂行したチーム内の役割を自分でも認められるようになる】【6. ライフイベントで変化している私生活と職業生活を自分らしくコントロールする】であった。これらのMasterテーマが表す節目に着目した考察を通して、中規模病院に就業するキャリア中期にある看護師のキャリアの特徴として、看護実践を専門とする職業人になること、組織内での自己を承認できること、ライフイベントを契機に発生した役割への責任を担うことが導かれ、看護実践における専門性を極めていくキャリアのみならず、自分なりの看護実践上の課題を発展していくキャリアがあった。また、各々の節目に現れた「自分」のあり様について、13のSuper-ordinateテーマに着目した考察から、気づきが浮かび上がってくる「自分」、ケアの対象者との「あいだ」という領域にある「自分」、すでに未来の臨床の場にある「自分」、時間の捻出を意思決定する「自分」が導かれ、これらは、解釈的現象学的分析を適用したことで見出されたキャリアにおける多様な「自分」であった。

## 論文審査結果の要旨

本研究は、日本において最も多くの看護師が就業する場である、地域の中規模病院に勤務し就業を継続するキャリア中期にある看護師に共通するストーリーとしてのキャリアを解釈的现象学的分析により明らかにし、キャリア中期にある看護師のキャリアとは何かを理解することを目的として行われた研究である。

キャリア中期にある看護師のキャリアについての研究では、発達モデルのキャリアを中心に探求されてきた。本研究では解釈的现象学的方法に則ってキャリア中期にある看護師のキャリアをストーリーとして明らかにしており、研究テーマ自体がオリジナリティの高いテーマであり、看護学研究として研究する意義のあるものである。

本研究の研究デザインは Smith の解釈的现象学的分析を方法論とする質的記述的研究であり、地域の中規模病院に就業するキャリア中期にある看護師 8 名を対象に半構成的面接を 2 回実施しデータを収集している。前回の審査では研究方法論の修正が必要と判断されたが、修正された論文では、研究方法論についての記述が追記され、研究の分析過程の厳格性、信頼性が確認できた。さらに解釈的现象学的分析による方法論の看護学研究への示唆も追記されており、研究方法論としての新しい知見が得られていることが確認できた。

結果では、キャリア中期の看護師に共通するキャリアを表す 6 つの Master テーマと 13 の Super-ordinate テーマが明らかとなっている。考察については、再度『自分』についての考察を修正した結果、13 の Super-ordinate テーマにそって、各々の節目に「気づきが浮かび上がってくる『自分』」、「ケアの対象者との『あいだ』という領域にある『自分』」、「すでに未来の臨床の場にある『自分』」、「時間の捻出を意思決定する『自分』」という多様な『自分』のあり様が描かれ、分かりやすい表現となっていることが確認された。さらにキャリア中期にある看護師のキャリアの特徴が明確となり、臨床実践への示唆も明示され、新しい知見に富んだ論文となっていることが確認された。

よって審査の結果、本論文を合格とする。